

# 南関東防衛

平成30年  
夏号

平成30年夏号 年4回発行 第20号

## 特集

- 沖縄県道104号線越え実弾射撃訓練の分散・実施—東富士
- 第33回防衛セミナー「東アジアをめぐる情勢と対応」

# 沖縄県道104号線越え実弾射撃訓練の分散・実施―東富士

沖縄県に所在する米軍施設キャンプ・ハンセンにおいて実施されていた155ミリ榴弾砲による沖縄県道104号線越え実弾射撃訓練は、米軍施設・区域が集中する沖縄県の負担軽減を図り、また日米安保体制の信頼性の向上を図りつつ、米軍の練度維持及び即応態勢を保持するため、平成9年度から本土の5演習場にて分散・実施されています。

南関東防衛局管内では北富士演習場と東富士演習場でこの訓練が行われており、当局は訓練の円滑な実施のためのサポートを行っています。



沖縄県、キャンプ・ハンセンで実施されていた米軍による沖縄県道104号線越え155ミリ榴弾砲による実弾射撃訓練は、県道104号線をまたぐ形で射撃が行われるため、県道を封鎖して実施されていました。

平成8年8月、日米合同委員会において、沖縄県の負担の軽減を図るなどの観点から、この訓練を本土の5演習場で分散・実施することが合意され、翌年度の平成9年度から、本土5ヶ所の自衛隊演習場（矢臼別、王城寺原、北富士、東富士及び日出生台）で訓練が実施されています。



本年4月に、静岡県に所在する東富士演習場で本訓練が実施されました（準備期間等を含む）。参加人員は約360名、車両100両、砲12門による大隊規模による訓練が、4月28日から5月6日（自治体等への訓練公開1日を含む）の間榴弾砲等による実弾射撃訓練が行われました。

南関東防衛局は、管内に所在する北富士演習場及び東富士演習場における訓練時には現地対策本部を設置し、訓練の円滑な実施のため24時間体制で支援を行っています。

今回16回目となる東富士演習場における訓練においても、米海兵隊に対する訓練実施のための支援はもとより、地元自治体への説明・情報提供、陸上自衛隊や警察等関係機関との調整、演習場周辺の警備など、訓練の円滑な実施のための総合的な支援を実施しました。



現地対策本部：2列目中央：堀地局長、右：武田本部長、伊藤副本部長



開所にあたり、現地対策本部の看板を掛ける本部長（左）と副本部長（右）

（写真は現地対策本部の局職員、陸上自衛隊支援部隊、海兵隊訓練部隊の打ち合わせの様子です。）





平成30年5月1日(火)、沖縄県道104号線越え実弾射撃訓練の実施部隊である在沖海兵隊第12連隊第3大隊は、東富士演習場周辺自治体等を招待し、訓練見学を実施しました。大隊長バトラー中佐からは「日本政府や地元の協力で海兵隊の訓練を実施できることに感謝している」という挨拶と共に、訓練見学に参加した自治体等と訓練部隊全員との記念写真を撮りたいとの呼びかけに全員で写真に納まりました。



写真：地元自治体等と訓練部隊



写真：地元自治体等に説明する大隊長



写真：155ミリ榴弾砲の操作要員



写真：155ミリ榴弾砲による実弾射撃



写真：古くなった机を切断する海兵隊員

平成30年5月9日(水)、実弾射撃終了後、在沖海兵隊訓練部隊のボランティアが行われました。静岡県御殿場市内の国立中央青少年交流の家で、古くなった木材加工品を薪などとして再利用するための切断作業や現地中学生との交流を実施しました。



写真：参加した海兵隊員達と裾野市の中学生達

参加した海兵隊員達と中学生達は、「英語での自己紹介や米国版だるまさんが転んだ」等で約3時間の楽しい時間をすごしました。



# 在日米海兵隊キャンプ富士 フライトラインフェスティバル



平成30年5月5日（土）に静岡県御殿場市に所在する在日米海兵隊キャンプ富士において、フライトラインフェスティバルが開催されました。当日は天候にも恵まれ、午前11時の開門前から多くの来場者が長い行列を作りました。

この催しは、昨年までは「フレンドシップフェスティバル」の名称で開催されていましたが、今年は基地内の滑走路をメイン会場に「フライトラインフェスティバル」として開催されました。MV-22オスプレイをはじめ米海兵隊や自衛隊の装備品が展示され、午後にはFA-18ホーネット2機が基地上空に飛来し、来場者を大いにわかせていました。また、夜には花火が打ち上げられ、一日中、多くの来場者と基地の軍人で賑わっていました。

当局では、富士防衛事務所職員が、駐留軍等労働者労務管理機構（LMO）座間支部と協力し、ブースを展開しました。ブースでは、防衛省の政策や組織について、一般の方により理解を深めていただくために、「防衛省・自衛隊の活動」等のパンフレットを来場者に配布しました。なかでも、当局の若手プロジェクトチームが作成した「南関東防衛局」のパンフレットを手にした来場者から、「このような組織があることを初めて知った。」といった声が聞かれ、当局のPRにも貢献できたと感じました。

\*「南関東防衛局」のパンフレットは、当局HPで閲覧できます。



防衛省広報パンフレットを来場者に配布する富士防衛事務所職員



基地従業員募集の説明をするLMO職員



# CP富士 泥んこレース～MUD RUN～



(記念撮影をする堀地南関東防衛局長【中央】、エスカミヤキャンプ富士司令官【左】、若手職員たち)

平成30年6月17日(日)に静岡県御殿場市に所在するキャンプ富士において、今年で4回目となる「泥んこレース～MUD RUN～」が開催されました。「MUD RUN」は、コース内に設置された様々な障害を泥だらけになりながら乗り越えていくレースです。今年は昨年と同様に難易度の高いコースが設定され、5kmの個人競技・3人一組のチームラン、1.6kmキッズコースなどの部門に分かれて順位を競いました。

参加者は注意事項の説明の後、それぞれがエントリーしたレースに参加しました。コースには泥だまりや壁のぼり、小道の跡地などからなる12個の障害が置かれ、ゴールを目指して各所で激戦が繰り広げられました。

当局からは堀地局長が個人競技に、若手職員3人組がチームランに参加し、それぞれがコスチュームに仮装してレースに臨み、泥まみれになりながらも完走しましたが、惜しくも入賞を逃しました。

レース後の表彰式では、各部門で男女別に1～3位入賞者が表彰されたほか、特別賞の発表も行われました。昨年度に続き今年も若手職員チームが仮装部門特別賞を受賞し、豪華な賞品を受け取りました。



(泥の坂をロープで登る若手職員)

また、レース後の若手職員からは「森の中を走れてとても気持ち良かった」「最後の泥だまりが大変で印象に残った」など、様々な感想を聞くことができました。全員が口をそろえて「また来年も参加したい」と言っていたことから、レースの楽しさがうかがえました。



(草むらを軽快に走り抜ける堀地南関東防衛局長)

そして、主催者によれば、イベントへの参加者は約〇〇人、うち日本人は〇割とのことでした。このイベントは、海兵隊隊員が休日にも関わらずスタッフとして参加したり、有志でコースを作成したりととても力を入れて取り組んでいます。その熱意が伝わったのか、参加者はとても満足げな笑顔で参加していました。

今年も大盛況で幕を閉じた「MUD RUN」は来年以降も続いていくそうです。



(仮装部門特別賞を受賞した若手職員 高橋事務官【左】、富田技官【中央】、奥田技官【右】)



# 第33回防衛セミナー実施概要

## 東アジアをめぐる情勢と対応



堀地南関東防衛局長



上地横須賀市長

平成30年5月29日（火）神奈川県横須賀市の横須賀芸術劇場 小劇場（ヨコスカ・ベイサイド・ポケット）において、横須賀市から後援をいただいて「東アジアをめぐる情勢と対応」をテーマに第33回防衛セミナーを開催しました。

当日は、堀地南関東防衛局長から開会挨拶があり、その後上地横須賀市長から来賓挨拶を頂戴しました。

第1部では岡講師が、ミサイル等の開発を始めとする最近の北朝鮮情勢についての説明及び防衛省・自衛隊の弾道ミサイル防衛システム強化のための取り組みについて説明をいたしました。来場者からは、「現在の課題が分かり、理解が深まりました。」等の感想が寄せられました。



岡防衛政策局次長



伊藤内閣参事官

第2部では、伊藤講師が過去の例を用いながらミサイル発射時のJアラートの伝達方法の説明や落下時における場所ごとの具体的な対応方法の説明をいたしました。「上空でミサイルを破壊し、広範囲で落下物が広がった場合はどうするのか」という質問に対しては、「落下に準じる形で情報伝達をすることになると考えている」との回答がありました。



田中防衛補佐官



川口隊長

第3部では、田中講師からは海上自衛隊横須賀地方隊、川口講師からは航空自衛隊第1高射群第2高射隊、及びニーマイヤ講師からは在日米海軍横須賀基地について説明がありました。「今まで知ることができなかった米軍の考え方を知ることができ有益だった」「空母があるということは日本が信頼されているということであるということが分かった」と、特にニーマイヤ講師の講演が好評でした。



ニーマイヤ氏

セミナーには多くの方にご来場頂き、「タイムリーな内容で、専門家による講演だったことから、ポイントが良く分かった」、「横須賀在住者として身近に感じていた防衛政策について知ることができ、参加して良かった」といった感想がありました。

# 第79回 下田黒船祭

特集

平成30年5月18日（金）から20日（日）までの間、静岡県下田市において、黒船祭が開催されました。この催しは、下田開港80年にあたる昭和9年から始まり、ペリー艦隊来航と開国を記念した下田最大の祭典です。開催期間中は、記念式典や米海軍主催の墓前祭が厳かに行われる一方、市内中心の目抜き通りを練り歩く日米合同公式パレードをはじめ、下田条約調印式の再現劇、海上自衛隊及び米海軍の音楽隊によるサンセットコンサートなど活気あふれる沢山のイベントが実施され、延べ20万人の来場者で賑わいました。

下田公園開国広場で行われた記念式典では、ウィリアム・ハガティ駐日米国大使、佐藤正久外務副大臣をはじめとする日米の来賓が、「開国記念の碑」に花輪をささげ、日米の友好関係のさらなる発展を祈念しました。

このイベントにおいて、当局では、管内の在日米軍（横須賀基地、厚木航空施設、キャンプ座間、キャンプ富士）の協力を得て、「各米軍基地が行っている地域住民との交流活動」をテーマにパネル展示を行い、日米交流の取り組みについて紹介をしました。パネルを見た多くの来場者から、「米軍がこのような取り組みをしていることを初めて知った」といった声が聞かれ、黒船祭という地域のイベントを活用し、在日米軍への理解・関心を深める機会を提供することができました。



黒船祭イベントで挨拶をする福井下田市長



公式パレードの様子



パネルを眺める来場者



展示パネルの例  
(横須賀基地の交流活動)



「遊びに来ませんかスタジオへ」

(毎月第3木曜日横須賀地区で放送中です)



写真: 灯織さん(左)、田中防衛補佐官(右)



写真前列: 宮田地方協力確保室長(左)  
梶井係長(右)

FMブルー湘南「遊びに来ませんかスタジオへ(防衛トーク)」では、毎月第3木曜日午後3時から南関東防衛局職員が出演し、パーソナリティの灯織(ひおり)さんとともに日本の防衛政策などについて紹介しています。

5月17日の放送では、田中防衛補佐官をゲストに迎え、防衛補佐官の職務内容等についてお話ししました。

また、6月21日の放送では、この放送の企画も担当する地方調整課地方協力確保室の宮田室長と梶井係長が防衛政策広報や各種事態等への対応についてお話ししました。

【南関東防衛局HP】

お問い合わせ先: 南関東防衛局企画部地方調整課 (直通)045-211-7134



レーザー光線の照射により航空機の安全な運航を妨害することは犯罪です。

(最も重い刑で懲役**3**年(注))



■レーザー光線による操縦士への影響(イメージ)

神奈川県内や東京都内で飛行中の航空機に対してレーザー光線を照射するという事案が多発しています。

航空機へのレーザー光線の照射は、パイロットの目の負傷、失明、操縦への障害に繋がり、墜落等による大惨事を地域の皆様にもたらしかねない大変危険で悪質な行為です。

航空機に向けてレーザー光線を照射している人を見かけた方は110番通報をお願いいたします。

(注) 刑法の威力業務妨害罪に該当する場合(3年以下の懲役又は50万円以下の罰金)。

なお、航空危険行為処罰法の航空危険罪に該当する場合は、3年以上の有期懲役。

外務省、防衛省、警察庁、国土交通省

■本チラシの内容についてのお問い合わせにつきましては上記のお問合せ先に御連絡願います。